土木と小説の世界

楠　善雄*

芸といふものは実と虚との皮膜の間にあるものなり実にして実にあらず虚にして虚にあらず此間に慰めがあるものなり

近松門左衛門

土木建設・土木技術者の生活等を取材した小説類，または土木技術者が書いた随筆，随想などは読みたいと思えば幾らでもありそうであるが，さて探すとなると案外少ない．しかし全然ないわけでもない．

公務の余暇になんとなく書店の書架を眺めにいくのが楽しみのひとつで書架にならぶ本に道，路，河，川，橋，図などの書名のついたものが目につく．手に取っては見るが内容は土木とは無関係のものが大半を占めている．それでもたまには土木建設に関係があると思われるものがあると買い求め，読み終われば方寸の書庫にほうりこんでおいた．

昭和初期から現在までの 50 年間に刊行された書籍の中から日本の土木技術，建設関係をテーマにした「小説・物語・随筆」等の分類・整理を試みた．

雑然とした書庫の書架から，それらを手近かなところから選び出してはみたものの．方寸の書庫は永年収集した玉石混合の資料のため，完全な書塊となっている始末で，ブレーカーでも持ってきて一山，一山をくずして眼中の目的の本を掘り出さなければならない．

例えば，戦前刊行の山岡荘八氏の『丹那の梅』なぞ今もって見付からない．

『続・筑後川』は案外簡単にみつかったが，前篇が出てこない．やむなく，友人の国会図書館の稲村徹元君に問い合せたところ以下のような返事があった．

電話で申上げました林逸馬『筑後川』は現物を見ますと次のとおりです．

筑後川　前篇　昭和 18 年 1 月 15 日発行

京都第一芸文社（B6 判）264 頁　2 円

昨日カードにより前編と申上げたが現物タイトル，頁をたしかめますと前篇でした．

本文は 238 頁までで，241 頁以下は「跋」として，加藤武雄，上泉秀信，細田源吉，鶴田知也，矢崎弾，福田清人の「すいせん文」で占めてます．

戦時中の郷土文芸作家のふんいきが，よく出ています．矢崎弾の文が出ているのは知人で彼を調べている者にも知らせることができますので，こちらからも，お礼申し上げます（以下略）．

明治，大正の刊行は，たなの上にあげておくとし，昭和初期に刊行された常盤書房『高等土木工学』第 19 巻（第 20 回配本）昭和 8 年 2 月 19 日発行，非売品，牧彦七著「土木消談」，和田篤憲著作「近世道路史論」の一連関係まで解題するとなると，日時と頁数が問題になってくる．まして鷹部屋福平著「テニスの科学的考察と趣味」および土木建設関係の社史にまでふれるにおいておや．

しかし，少なくとも琵琶湖疏水設計・指導の田辺朔郎

* 府中市役所下水道部

分類 / 年代	小説・戯曲	ノンフィクション・物語
昭和元年～19年	岩藤　雪夫著『丹那トンネル』春陽堂，8.5.30，p. 254，40銭 石川　達三著『日蔭の村』新潮社，12.10.22，p. 302，1円50銭 保田与重郎著『改版日本の橋』東京堂，14.9.27，pp. 35～103，1円70銭 添田　知道著『利根川随歩』三学書房，16.8.13，p. 361，2円 松沢　卓郎著『野中兼山』講談社，16.11.15，p. 316，1円50銭 住　彦次郎著『悲願治水観音』大衆文芸社，18.3.30，p. 373，1円60銭 北条　秀司著『丹那隧道』大川屋書店，18.4.5，p. 118，2円 林　逸馬著『前篇筑後川』第一芸文社，18.1.15，p. 264　2円 林　逸馬著『続筑後川』第一芸文社，18.6.15，p. 250，2円 伊藤弥太郎著『伊能忠敬』新潮社，18.8.28，p. 288，1円50銭	寺島　征夫著『海底トンネル』東水社，18.1.12，p. 318，1円80銭 高橋　俊人著『築港の偉傑稲葉三右衛門』日本出版社，18.1.15，p. 250，1円20銭
昭和20～29年	二反　長半著『愛の植林』学習社，21.4.10，p. 126，5円50銭 岸　哲夫著『明治川』崇文館，21.10.20，p. 247，50円 タカクラ・テル著『ハコネ用水』理論社，26.3.5，p. 317，200円 岸　哲夫著『明治川』黎明書房，27.11.10，p. 270，230円	タカクラ・テル著『ハコネ用水の話』理論社，26.12.1，p. 148，100円
昭和30～39年	三島由起夫著『沈める滝』中央公論社，30.4.30，p. 320，250円 中山　義秀著『木曽川物語』池田書店，31.3.20，p. 160，120円 吉岡　達夫著『オレンヂ運河』角川書店，32.2.20，p. 150，100円 新田　潤著『東京地下鉄』芸文書院，32.5.30，p. 264，260円 杉本　苑子著『孤愁の岸』講談社，37.10.25，p. 282，360円 水上　勉著『黒壁』角川書店，38.7.15，p. 215，230円 大石千代子著『ベンケット道路』日本週報社，38.10.10，p. 276，360円 若山　三郎著『開運の橋』光風社，39.6.25，p. 291，340円	杉浦　民平著『台風十三号始末記』岩波書店，30.8.20，p. 232，100円 上田　広著『海底トンネル第一号』珊瑚書房，31.5.25，p. 320，300円 長谷部成美著『佐久間ダム　その歴史的記録』東洋書館，31.7.15，p. 264，270円 上田　広著『井上勝伝』井上勝銅像を再建する会，34.10.14，p. 205，非売品 上田　広著『鉄道創設史伝』交通日本社，35.3.15，p. 234，360円 神吉　晴夫編『台風の子伊勢湾周辺の記録』35.4.25，p. 222，150円 藤井　幸永著『九頭竜川は生きている』教養堂，36.9.5，p. 234，280円 田渕　寿郎著『或る土木技師の半自叙伝』中部経連，37.11.20，p. 258，400円 村松　喬著『新しい鯨』毎日新聞社，39.6.1，p. 270，380円 木本　正次著『黒部の太陽』毎日新聞社，39.11.5，p. 317，380円
昭和40～49年	青山　光二著『修羅の人』講談社，40.11.15，p. 264，480円 西口　克己著『新幹線』弘文堂，41.4.20，p. 373，580円 石川　達三著『金環蝕』新潮社，41.10.15，p. 266，400円 野村　尚吾著『豪商』毎日新聞社，43.7.25，p. 222，360円 清水　寥夫著『泰緬鉄道』毎日新聞社，43.7.25，p. 390，490円 樺村　英治著『悲愁の川』毎日新聞社，43.9.20，p. 309，470円 戸川　幸夫著『人喰鉄道』毎日新聞社，43.10.20．p. 331，450円 曽野　綾子著『無名碑』講談社，44.10.30，p. 442，620円 一色　次郎著『朔風の鐘』三一書房，45.5.31，p. 287，750円 新田　次郎著『霧の子孫たち』文芸春秋社，45.11.20，p. 261，500円 秋永　芳郎著『丹那隧道』新人物往来社，45.12.15，p. 234，650円 広池　俊雄著『泰緬鉄道』読売新聞社，46.8.15，p. 430，430円 三浦　哲郎著『まぼろしの橋』文芸春秋社，47.5.1，p. 261，580円 池上　義一著『宝暦治水記』潮出版社，47.6.15，p. 297，400円 タカクラ・テル著『箱根用水』東邦出版社，48.6.10，p. 254，680円 木野　工著『苫小牧港』講談社，48.12.12，p. 427，980円 新田　次郎著『怒る富士』文芸春秋社，49.3.15，(上) p. 309，(下) p. 293，900円 西口　克己著『新幹線』東邦出版社，49.5.10，p. 392，1200円 西口　克己著『びわ湖』東邦出版社，49.5.15，p. 219，850円 瓜生　卓造著『間宮林蔵』山と溪谷社，49.6.15，p. 254，750円 石浜英太郎著『橋は死の匂ひ』双葉社，49.9.15，p. 268，680円 杉本　苑子著『玉川兄弟』朝日新聞社，49.9.30，p. 350，980円 井出　孫六著『アトラス伝説』冬樹社，49.11.25，pp. 145～231，1200円 村上　元三著『五彩の図絵』朝日新聞社，49.11.30，(上) p. 278，840円，(下) p. 258，820円	佐村　芳之著『新幹線用地屋奪戦記』東京書房，40.11.20，p. 249，290円 吉村　昭著『高熱隧道』新潮社，42.6.20，p. 226，320円 木本　正次著『香港の水』講談社，42.7.24，p. 238，380円 木本　正次著『黒部の太陽』講談社，42.10.16，p. 308，380円 木本　正次著『東京地底』日本経営出版会，44.8.5，p. 274，420円 芳水　康史著『吉野川・(利水の構図)』芙蓉書房，45.6.20，p. 273，750円 木本　正次著『砂の十字架・鹿島人工港ノート』講談社，45.9.24，p. 370，580円 木本　正次著『香港の水』潮出版社，48.3.25，p. 398，850円 高田　玉吉『実録土工・玉吉（タコ部屋半生記）』大平出版社，49.3.30，p. 248，960円
昭和50年以降	大江　賢治著『ダム食虫』東邦出版社，51.2.25，p. 244，980円	北野　道彦著『利根運河』崙書房，51.3.1，p. 193，600円 野本作兵衛・渡辺貢二共著『七夕の大水』崙書房，51.7.10，p. 160，500円

注：著者名，書名，出版社名，発行 昭和年月日，ページ，定価の順で記述してあります。

青少年対象図書（童話を含む）	その他（文庫本を含む）
有馬　宏著『トンネルを掘る話』岩波書店，16.12.15，p. 273，1円20銭 佐々木千之著『北海の先駆者 間宮林蔵』三省堂，17.2.5，p. 319，1円80銭 住井すえ子著『日本地理学の先駆 長久保赤水』精華房，18.11.15，p. 273，2円	海野　夢仏著『川柳巷談はしからはしへ』小木書房，8.3.5，p. 292，1円80銭 杉田　雨人著『長久保赤水』舎英堂・衆星堂，9.4.1，p. 282，1円50銭 中川　斉著『加藤清正公と土木治水』熊本城趾保存会，11.2.25，p. 107，30銭 伊達　牛助著『伊能忠敬』古今書院，12.5.17，p. 172，1円20銭 田辺　朔郎著『石斉随筆』丸善，12.9.10・12.9.15，p. 258，非売品・1円80銭(再) 宮本武之輔著『随筆集 技術者の道』科学主義工学社，14.6.25，p. 340，1円50銭 成瀬　勝武著『橋』河出書房，16.5.15，p. 205，1円20銭 鈴木　雅次著『河』河出書房，16.7.30，p. 300，1円50銭 三田村鳶魚著『玉川上水の建設者 安松金右衛門』電通出版部，17.12.20，p. 247，1円60銭 吉田喜市郎著『統制経済の先覚者 野中兼山良継』神田書房，18.1.13 p. 168，1円40銭 山本　亨著『道路と生活』羽田書店，18.4.30，p. 265，1円40銭 渡辺　敏夫著『間重富とその一家』山口書店，18.10.15，p. 478，4円 林屋辰三郎著『角倉了以とその子』星野書店，19.4.5，p. 201，2円50銭
森　銑三著『近世日本の科学者達』青雲書院，23.6.30，p. 324，150円 大野三郎著『日本の科学につくした人々』毎日新聞社，29.1.20，p. 267，260円	溝口　三郎著『雨邨水利史談』雄鶏社，23.6.30，p. 255，150円
滑川　道夫編『日本の力 (1) 郷土に生きる』小峰書店，38.11.15，p. 223，390円	労　働　省編『日雇（ひやとい）の歌』労働法令協会，31.5.5，p. 240，150円 鈴木　雅次著『土木屋さん』筑土書房，31.6.20，p. 166，130円 石川　栄耀著『余談亭らくがき』都市美技術家協会，31.10.25，p. 416，非売品 根岸　清治著『都市に生きる 石川栄耀縦横記』作品社，31.10.25，p. 186，200円 毎日新聞社編『吉野川』毎日新聞社，35.8.20，p. 334，300円 片岡　謙原著『新編水利史談』水利史談編纂会編，36.2.—，p. 258，非売品 海老原　恵著『伊奈家の業蹟』自費出版，36.10.1，p. 86，非売品 平山復二郎著『随筆 土木建設に生きて』山海堂，36.10.15，p. 414，480円 赤木　正雄著『砂防一路』全国治水砂防協会，38.7.15，p. 500，1000円 近藤謙三郎著『一里塚』国政社，39.10.25，p. 479，1200円
今西祐行著・井口文秀画『肥後の石工』実業之日本社，40.12.15，p. 209，400円 滑川　道夫編『日本人の力』小峰書房，40.12.25，p. 224，390円 岸　武雄著・梶山俊雄画『千本松原』あかね書房，46.5.20，p. 237，550円 かつおきんや著・梶山俊雄画『辰己用水をさぐるナゾの人板屋兵四郎』牧書房，46.11.30，p. 252，650円 かつおきんや著・梶山俊雄画『まぼろしの木橋』牧書店，49.1.20，p. 256，850円 浜野卓也著・金野新一画『おばばと太平の橋』国土社，49.3.5，p. 72，750円	吾孫東二郎著『たるんでるぞ』国政社，40.3.25，p. 252，400円 安岡章太郎著『利根川』朝日新聞社，41.4.30，p. 246，460円 東大橋梁研究室『田中豊博士追想録』42.8.27，p. 463，非売品 刊行委員会『岩沢忠恭先生追想録』国政社，43.8.30，p. 643，非売品 吾孫東二郎著『道路さん』鹿島出版会，45.3.10，p. 269，700円 藤原　武著『続・道路さん』鹿島出版会，49.3.30，p. 303，1400円 池田弥三郎著『日本橋私記』東京美術，49.10.30，p. 312，800円 【文　庫　本】 大原　富枝著『婉という女』新潮文庫，p. 211 三島由紀夫著『沈める滝』新潮文庫，p. 241 山本周五郎著『ながい坂』新潮文庫，(上) p. 426，(下)・p. 429 石川　達三著『金環蝕』新潮文庫，p. 420 安部　公房著『石の眼』新潮文庫，p. 243 吉村　昭著『高熱隧道』新潮文庫，p. 230 三浦　哲郎著『まぼろしの橋』文春文庫，p. 461 今西　祐行著『肥後の石工』講談社文庫，p. 196
宮下和男著・斉藤俊雄画『あばれ用水』信濃毎日新聞社，51.6.30，p. 225，970円	青木　楠男著『私のページ』山海堂，50.11.10，p. 336，1900円 楠　善雄著『土木屋さんの史学散歩』鹿島出版会，51.5.11，p. 288，2000円

著『石斉随筆』ほか数点ぐらいは解題しておきたい．

『石斉随筆』は2冊あるが，「序文」は初版，再版とも同文で，

私は工事に関係のある石片を蒐集愛玩し石斉と号して居ります．其の質や形の良否ではなく，工事に関係があって，各片其の見聞を物語りするを得る，是等の石の話を書き綴って居ります．

此度この石話の外に旅行中の記事や，あちらこちらでお話をした小話を纏めて置く様にとの勧誘もありますので，其の一部を爰に綴りました．

昭和 12 年初秋　　田辺朔郎　識

であるが初版には「書後」が付いている．

京都帝国大学名誉教授田辺朔郎先生が工学部に御在任中，私は先生教室附助手として勤務させて戴いていた関係から，屢々先生の御趣味の広い且つ後進に対する教訓の多分に含まれた御話を承りました．就いては之を其の侭私ども少数の者が聞き流しにするのは，いかにも惜しいので当時の記憶を辿り，書物に纏めてみたいと思ひつつ遺憾ながら久しく宿望を果し得なかったのであります．

然るところ昨昭和 11 年，先生が満鮮視察の為め御旅行の際御目にかかり，そのことを申上げたのに，「実は他にも同感の人があって……」との御話でありましたので，私は「それなら是非御上梓になりましては……」と御奨めいたし，それが機縁となって，到頭，先生御自身を御煩はせすることになり，幸い本書印行の日を迎ふることとなりました．先生喜寿にして矍鑠壮者を凌ぐ御精進ぶりには全く敬服の外なく，私ども門下生として御同慶に堪へない処であります．加之，此の書の扉『石斉随筆』の文字は先生の肉筆で又御捺印であります故，本書を永く伝へて家宝とする上からも将又先生の御長寿にあやからうとする私どの希望からしても，此の上もない良い記念と存じます．

茲に本書上梓の由来をものして敢て巻末を汚した訳であります．

昭和 12 年初秋　　於旅順　塚本精太郎謹記

初版は私家蔵本で奥付には売価なく，著作兼発行者は田辺朔郎である．再版は発行所が丸善株式会社で定価1円 80 銭になっているが，明治からの慣行で著者が版権を持っていて，印刷所を通じて売捌代理店（たとえば丸善）が市販した．

その典型的な出版方法は，大鳥圭介訳『堰堤築法新按』(1882)，田辺朔郎著『袖珍公式工師必携』，『袖珍公式工師必携補遺篇』(1889) および甘利忠訳の『模氏掌中工学公式』上 (1889)，下 (1891) が裏付している．

昭和 49 年刊行された小説『五彩の図絵』は村上元三氏（昭和 15 年度直木賞受賞者）の作品で，昭和 48 年6月 14 日から 49 年9月 14 日まで朝日新聞（夕刊）に 378 回にわたって連載された．元禄 15 年 12 月 14 日，赤穂浪士の討入りを発端に，吉良上野介とかかわりのある上杉家の納戸方で，北条流の測量術を玄武道印こと旗本・北条次郎三郎光氏に学び，測量・写図に特殊の才能をもつ若侍春日今之助を軸として展開される野心的な時代長編で，技術問題を取り入れた新しい意図をもった大衆小説である．村上氏は江戸時代の測量関係の技術書を良く観てはいるが，現代の測量学を理解していないためか技術面の表現にあまさがある．

井出孫六氏の『アトラス伝説』は昭和 49 年度下期直木賞受賞作品ではあるが，明治時代に実在した人物とフィクションの構成に欠点がある．しかし，よく調べてあって

「新橋をたった御殿場行きの特等車に客の姿は少なく，画家の師弟は（中略），御殿場の土手の桜は今が見頃だった．のどを潤すために茶屋に入った．冬崖（川上万之丞）が休む間，駅まで迎えに出た顔見知りの宿の番頭の手をかりて，松岡は手回りの品をおさめた行季と，画具をまとめたバックとを馬車の荷台に積んだ（中略）．松岡は土手の桜をみるべく，駅舎を出たとき，ちょうど熱海の乗合馬車が出るところであった」．

新橋から御殿場まで鉄道．御殿場から元箱根をへて熱海までの乗合馬車のルートを知る人は現在では少ない．

独自な史眼の冴えをもつ杉本苑子女史の感動巨編の小説『孤愁の岸』，『玉川兄弟』は，伊藤信の労作『宝暦治水と薩摩藩士』(1942)，三田村鳶魚著『玉川上水の建設者・安松金右衛門』(1942) を資料としているが，惜しむらく幕府派遣の御普請役，ことに『孤愁の岸』においては，監督の任にあった土木技術者の技術と人を理解しないで，薩摩藩士を一方的に描写して迫力を欠いた作品としたのは惜しい．

ノンフィクションの『新しい鯱』『黒部の太陽』『香港の水』『砂の十字架』等は，土木技術者必読の本である．

特に『香港の水』『無名碑』は海外工事において現在の日本土木技術者が，いかに語学力を必要とするかを考えさせる作品である．

青少年を対象とした作品で『肥後の石工』は，日本のさむらい時代が終ろうとしているころ，肥後（熊本県）の岩永三五郎は，むかしから伝わった技術をもとに，りっぱな石のアーチ橋を築こうとする――．

橋づくりに命をささげた名人を語り，深い感動を伝える．史実と想像を織り混ぜた少年少女向き歴史小説の秀作!!

『千本松原』は，200 年ほど昔，美濃の国の人びとは

毎年のように，水害にいためつけられていた．——そのとき，遠く薩摩の武士たちが幕府の命を受けて，木曽川修復にかけつけてきた！　封建幕府の厳しい統治のもと水と泥，血と汗にまみれて生きる武士と農民の姿を少年与吉の目を通して描いた壮大なロマン！

『辰巳用水をさぐる——ナゾの人板屋兵四郎』は，用水といえば，愛知用水とか箱根用水とかが有名であるが金沢にある辰巳用水も，300 年以上も前につくられた．サイフォンを応用した，りっぱな用水である．

だれがどのようにしてつくったか．その伝説やナゾを追って，著者一家の小さな調査団の活躍の記録である．

『まぼろしの木橋（きばし）』これは，日本三奇橋のひとつ愛本はね橋（富山県）は，その工法などナゾが多い．著者と高校２年生と小学校５年生の息子たち３人が宇奈月温泉近くにかかっていた橋脚のない橋として有名な愛本橋について調べた経過を中心にまとめた記録読物である．まず，著者は一家が犀川の上流の熊走橋を実地調査して架橋の様子を聞き，山梨県の桂川にかかる猿橋を見学するなど，愛本橋と同じ原理でできている典型的な木橋を調べて歩いた様子を紹介し，読者に木橋について予備知識を与えている．

つづいて，著者は息子と加賀藩主・前田綱紀が愛本橋架橋を命じたという事実の経緯を調べながら，工事の様子を推測し「橋はなんのためにあるか」といった社会的意義を考えながら，読者の社会的関心に応えていく．

『あばれ用水』，信州飯田の北方村は畑はあっても田んぼのない貧しい村であった．山本長左衛門は，なんとかしてこの村へ水を引こうと思いたち，庄屋の清水源助や器用者の松沢兵蔵らの力を得て，100 年ものあいだ廃堰となっていた荒井の水路を掘りかえそうとする．

ところがこの水路は昔から，雨の降るたびに大荒れとなる＜あばれ用水＞であった．勝手のよい伊原権三は洪水を恐れて反対するが，工事は数々の困難を乗り越えて進められる．そして，ついに水路はよみがえったが，おりしも襲った大雨のために，ずたずたにされる．工事に失敗した長左衛門は，村人から非難されるが，ふたたび執念をもやしてとりかかる．兵蔵と二人で大岩に穴をあけ，岩石水門で取入れ口をかためる．

土木建設工事を取り上げた小説・戯曲に対して，昭和35年10月に明治座で上演された「丹那隧道」を星野茂樹とともに観劇した平山復二郎氏が『随筆・土木建設に生きて』に

……劇は四幕だったと思うが，未曽有な難工事に，中止が問題になった議会委員会の場面にはじまり，工事中経験した，崩壊事故，悪戦苦闘，渇水被害などにからむ現場従業員の献身的な努力の場面を取り扱って最後にめでたい貫通の喜びの場面でおわっていた．そして終始きわめて感激的なものだった．

私には，劇を批判する能力がないので，なんともいえないが，新聞などの批評をみると，評判は大変よかったようである．観劇中，注意して左右を見まわしてみると，観客は，いかにも緊張した面持ちで舞台に見いっていた．なかには感激に，目頭を熱くしているらしい者もいた．星野君もそうだったと思うが，私も何度か演出にひかれて，涙が出そうになる場面があった．しかし，かつて，この工事の当事者の一人で，事実をよく知っている関係からは，一般の観客のように観劇の気分がどうも単純でなかった．

何より気になったのは，劇に取り上げたいろいろな出来事があったことは事実だが，劇化されたその内容になると，大分実際とちがっていたことである．相当歪曲されているのである．考えてみれば，劇として観客の感情に訴え，感激的におもしろく脚色するとしたら，こんなことにする外ないのかも知れない．またそれでいいのであろう．しかし気になったのである．

星野君も，私と同じような気分から，「苦労はしたが楽しくもあったんだがなあ」とも，もらしていたが，けだし技術者ならではの言葉であろう（中略）．芝居や小説などに書かれている大筋の事柄は，大体あった事実なのだろうが，その細かい内容になると，だいぶ芸術的におもしろく粉飾歪曲されているのではないか．そしてそれは，それで差支えないのであろう．芝居や小説は，史実とは別個のものだと思えばである．

あるいは，こんなことは当然で，今更こんなことを考えること自体がおかしいかも知れない．

十六年を一時に劇につづめてはかくなるものか興深く見る　　平山復二郎

といっている．土木建設技術関係を扱った作品は専門用語一つによっても，その全部がつまらない作品であるかのような錯覚におちいりやすく，そのせいか，土木建設をテーマにした小説類を，土木技術者は読まない傾向がある．

しかし，土木技術者も読書によって世論および庶民の声を受けとめ，対応する広い視野が必要である．

土木建設をテーマにした作品をどれほど綿密に調査しても，見落しは出てくるだろうが，今後はできる限り時間と労力を惜しまないで一冊でも多くを編み込めるよう努力したい．

土木学会創立60周年記念出版　●土木学会誌・論文集総索引（1915～1975）●　51年12月刊行予定
第1巻から第60巻までの Index. B5 判 450 ページの大冊．60 周年最後の記念すべき大事業．

鹿島出版会

鹿島出版会の建設工学シリーズ

●新しい工法、新しい理論、適切な設計を理解するため、実例・図版によりわかりやすく解説した現場技術者の必携書　●基礎工事に携わる技術者のテキスト。建設業実務者の指針書

全訂新版 工事管理 ＝新しい計画と管理の技術
佐用泰司著　A5判 350頁　¥2,400
工事管理の理論と実際について、建設工事の特質を考慮しつつその体系化、合理化ととり組んできた著者が、基礎理論と手法を解明。

地盤注入 ＝基本理論と施工技術
H.カンブフォール／斉藤・福住共訳　A5判 434頁　¥3,000
最も技術の進んでいるフランスの実施経験をもとに、地盤注入の計画・実施に必要な施工技術を解説した理論書として唯一の専門書。

現場技術者のための 土質工学
最上武雄・福田秀夫共著　B5判 420頁¥3,000
建設現場の積算・施工に従事するすべての技術者の必携書として、あるいは土質技術者養成テキストとして最適の内容に編集。

土質動力学の基礎
石原研而著　A5判 310頁　¥3,500
土の動的力学を、強度を中心にした破壊現象を主眼として、橋梁・ダムの基礎・盛土等の設計・施工者、土木設計者一般を対象に解説。

現場技術者のための 基礎工法
E.バックス／福田秀夫監訳　A5判 490頁　¥3,800
とくに浅い基礎、深い基礎と大きく分け、日本をはじめ世界各国のあらゆる工法を網羅して解説。図版豊富、すぐれたハンドブック。

構造物基礎の失敗例
K.チェッキー／宮川房夫訳　A5判 224頁　¥2,000
事故や失敗は洋の東西を問わず多くの点で共通のものが多い。わが国の基礎工事においてもこれらの破壊例と解析は有益な資料となる。

軟弱地盤 の調査から設計、施工まで
稲田倍穂著　A5判 332頁　¥2,600
土質力学を最も有効に利用できる軟弱地盤について、調査・設計・施工の実例をあげ、わかりやすく解説。土木技術者の必携書。

薬液注入工法の実際
日本材料学会土質安定材料委員会編　A5判 288頁　¥2,900
注入工法の現状を把握し、問題点を明確にしてその対策を述べ、現存する注入材料・注入機械および注入工事の施工例などを検討紹介。

土木技術者のための 地質学
高橋彦治著　A5判 282頁　¥2,500
永年にわたる著者の体験と研究の成果から、多くの技術者がとくに強い関心をもつ地質的問題を実務に役立つように記述。

道路土工 の調査から設計、施工まで
稲田倍穂・土肥正彦共著　A5判 280頁　¥2,200
道路工事の中でとかく問題のある道路土工について、調査・試験・結果に応じた設計方法から施工に至るまで実例を入れて解説。

地すべりとその対策
ザルバ，メンツル／松尾新一郎訳　A5判 264頁　¥2,300
建設工事の切土、盛土、掘削ならびに自然斜面での崩壊防止対策を欧米10数ヵ国での多数の実例とともに解説した、地すべり対策の書。

全訂新版 土木工事ののり面保護工
新田伸三・小橋澄治共著　A5判 280頁　¥2,900
豊富な写真・図版・データによって、植生と人工材料によるのり面保護工のすべてについて問題点を明らかにする。のり面技術の指針書。

シールド工法
矢野信太郎著　A5判 360頁　¥2,000
都市土木の花形工事のシールド工法について、機械の構造・機能をはじめ、その設計・施工についてまとめている。

地下水位低下工法
松尾新一郎・河野伊一郎共著　A5判 224頁　¥2,400
地下水面下の各種工事において地下水をより安全に、より速やかに、より経済的に低下させる工法を解説した建設界待望の書。

斜面安定工法 ＝指針と解説
日本材料学会土質安定材料委員会編　A5判 354頁　¥2,200
学問上のエアポケットになっている斜面の安定対策について、各分野の委員が参加し、各自のデータ、文献をもち寄って分析した成果。

＊小社の本は注文制を主にしていますので、万一店頭にないときは書店にご注文下さい。

明日を築く知性と技術 ●鹿島出版会 ●東京都港区赤坂6 5-13 ●tel 582-2251 ●振替東京6-180883 ●図書目録ご希望の方は営業部までお申し込み下さい。

現場技術者のための **都市土木**

福田秀夫・坂野五郎共編　B5判 292頁　¥3,400
長年土質基礎の研究に従事してきた技術者が、土と水に対する理論的追求に実際工事において経験した実績をおり込んでまとめた参考書。

トンネル技術者のための **岩盤力学入門**

Q.イザクソン／高橋彦治・小林芳正共訳　A5判 260頁　¥1,800
岩盤力学の基礎的項目としての弾性論ないし材料力学的な地圧論を、難解な数学や力学を用いず、分りやすく説明。

トンネル施工の 問題点と対策

池原武一郎著　A5判 224頁　¥1,800
トンネル施工上の問題点、とくに地圧・湧水処理・坑口などについて具体的な実例数十点を使って解説した、トンネル技術者必携の書。

建設における **地盤振動** の影響と防止

小林芳正著　A5判 202頁　¥2,600
人間・施設・機械などに対する振動の影響と許容限界、発破、杭打ち、交通機関など各種振動源による振動の特長・障害対策等を解説。

地盤と構造物

池田俊雄著　A5判 300頁　¥3,100
――自然条件に適応した設計へのアプローチ――　実例やデータを中心に自然に調和した設計をするために考慮する点を解説した実務書。

地下工事の 施工計画と見積

A.パーカー／北村市太郎訳　A5判 344頁　¥3,800
トンネル、立て坑、地下発電所など地下工事の施工計画および費用の見積方法を、事例により簡明に説明。入札書の作成方法をも説明。

水中コンクリートの施工法

赤塚雄三・関博共著　A5判 272頁　¥2,900
著者が経験した多くの施工例を中心に、水中コンクリートの全てにわたって配合設計、施工機械の選定、使用方法、型枠、注入等を解説。

推進工法

成山元一・志田幸盛共著　A5判 186頁　¥2,400
上下水道・電力・ガス・共同溝などの地下埋設物施工の増加に伴って大きな脚光を浴びてきた推進工法を、あらゆる角度から記述。

力学の構造物への応用

星谷　勝著　A5判 360頁　¥3,200
力学の知識が具体的に構造物の解析にどの様に応用されるかを、多数のイラスト図面とともに、実際の構造物→構造・力学モデルの流れで解説。

確率論手法 による構造解析

星谷　勝著　A5判 176頁　¥1,500
確率・統計論的手法を説き、土木・建築の構造工学者・技術者を対象とし、静的・動的両部門にまたがって、内容をわかりやすく解説。

確率論手法 による振動解析

星谷　勝著　A5判 270頁　¥3,200
地震動や強風などの条件のもとで、荷重――構造――安全性の関係を本質にもどって検討。『確率論手法による構造解析』の応用編。

建設技術史―工学的建造技術への発達

H.シュトラウブ／藤本一郎訳　A5判 280頁　¥3,300
建設技術の歴史的発展の過程を、古代より現代にいたるまで、とくに古代中世に展開された建設技術が近代科学によってどのように影響され、技術の発展とともにどのように歩んだかを、実務家が詳述したユニークな書。

建設業における損害保険の上手な掛け方

鹿島出版会編　B6判 230頁　予¥1,200
産業災害が大型化・多様化してきている現在、建設業における損害保険の取扱いは企業経営の安全弁として重要不可欠な意義をもつ。本書は、損害保険につき経緯・種類・現状・具体例を説明した待望の実用書。

コンクリート構造物のクリープと乾燥収縮

H.リュシュ, D.ユングヴィルト／百島祐信訳　A5判 264頁　予¥2,900
クリープと乾燥収縮の構造物に及ぼす影響を解析し、実際に適用する際の基礎数値を示している。諸種の具体的条件での計算法を示し、豊富な計算例によって実務者の便宜を図っている。土木学会の規準を理解するための参考書。

＊小社の本は注文制を主にしていますので、万一店頭にないときは書店にご注文下さい。

明日を築く知性と技術　●鹿島出版会　●東京都港区赤坂6-5-13　●tel 582-2251　●振替東京6-180883　●図書目録ご希望の方は営業部までお申し込み下さい。